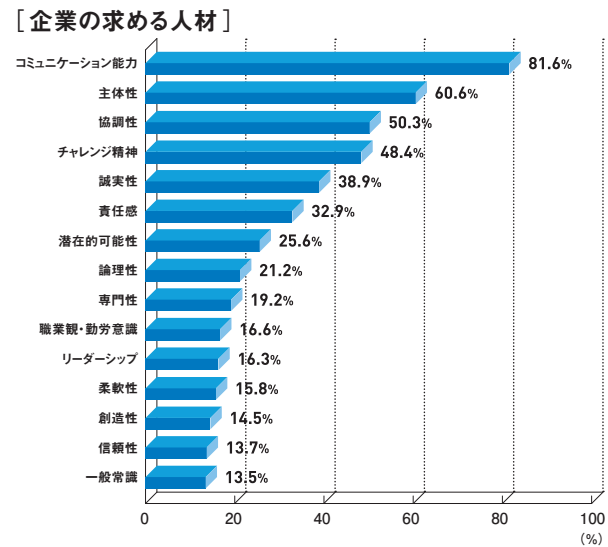


企業が求めるのはコミュニケーション能力や主体性

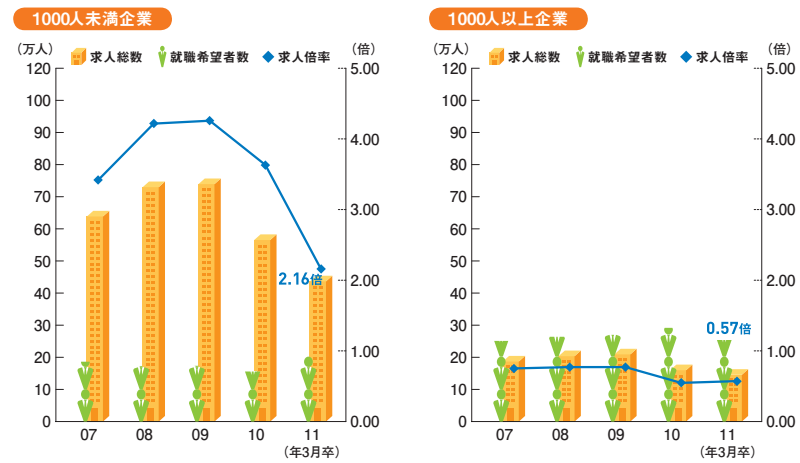


大学等新卒者の採用の際に企業が重視することを聞いたアンケートで、最も多かった回答は7年連続で「コミュニケーション能力」。このほか「主体性」「協調性」「チャレンジ精神」などが上位にあがっている。「出身校」(3.9%)、「所属ゼミ/研究室」(0.8%)といった所属に関する回答は少数だった。

日本経済団体連合会「新卒採用(2010年3月卒業生)に関するアンケート調査結果」(25項目から5つ回答/上位15項目を抜粋)

中小企業の求人数は大企業の約3倍

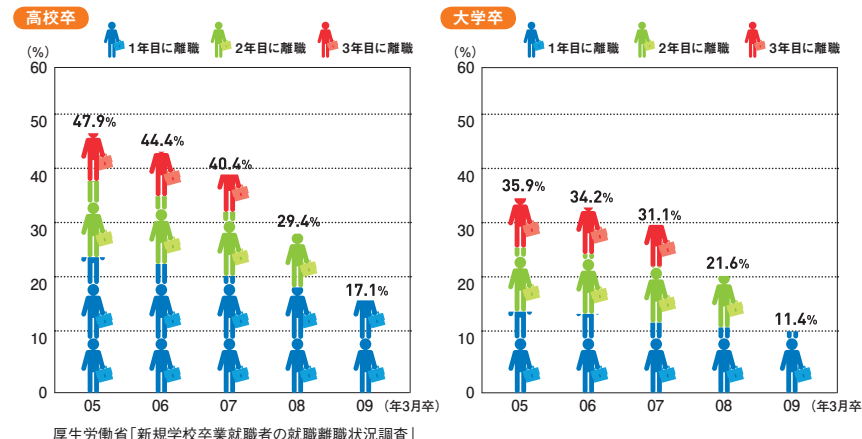
【従業員規模別の大卒者求人数と求人倍率】



小社ワークス研究所「第27回ワークス大卒求人倍率調査(2011年卒)」

早期に離職する人は減少する傾向

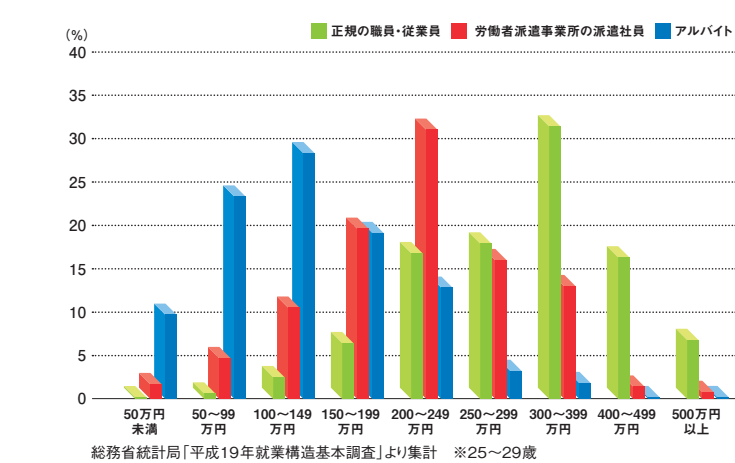
【高卒者と大卒者の離職状況】



厚生労働省「新規学校卒業就職者の就職離職状況調査」

雇用形態で変わる年収額

【正規雇用・派遣社員・アルバイトの年収】



総務省統計局「平成19年就業構造基本調査」より集計 ※25～29歳

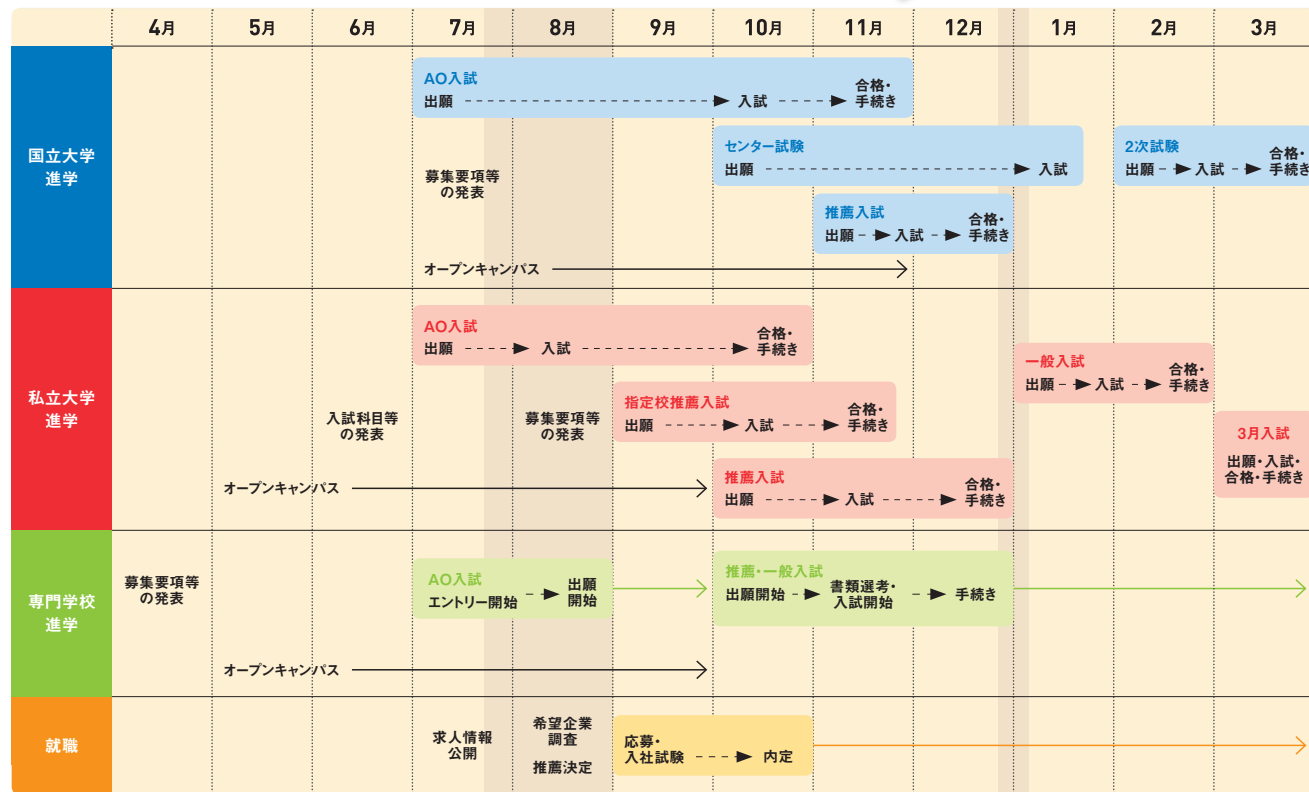
高校1年生から3年生まで必見!

進路環境DATA

2011

夏から始まる選考も、**早めの行動がカギ**

【高校3年生の進路決定スケジュール】



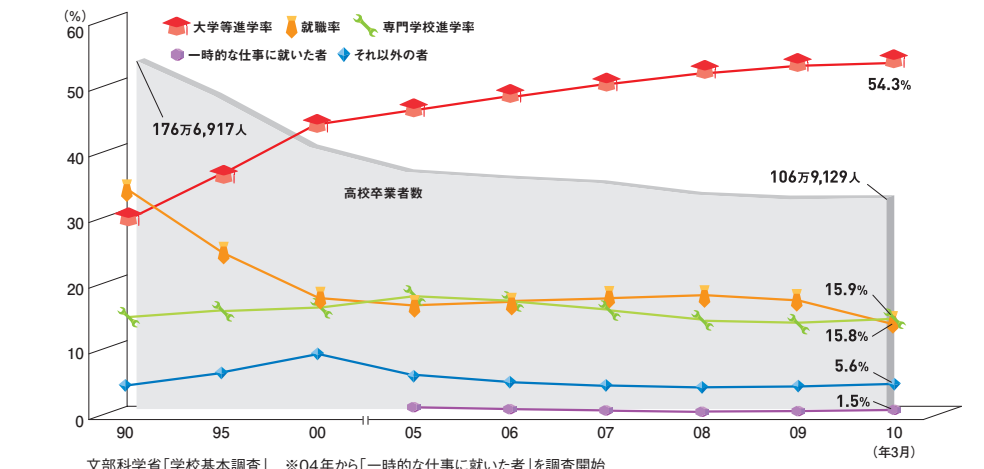
私立大学や専門学校では、7月からAO入試のエントリー・出願がスタートする。また、就職の場合は、7月に求人票が公開され、9月に入社試験が始まる。1、2年生のうちから進路について考えたり情報収集したりしておきたい。

※詳細は各都道府県、学校で異なる

DATA 01 高卒者の進路の概要は?

大学等進学率が54%で過去最高を更新

【高卒時の進路状況】

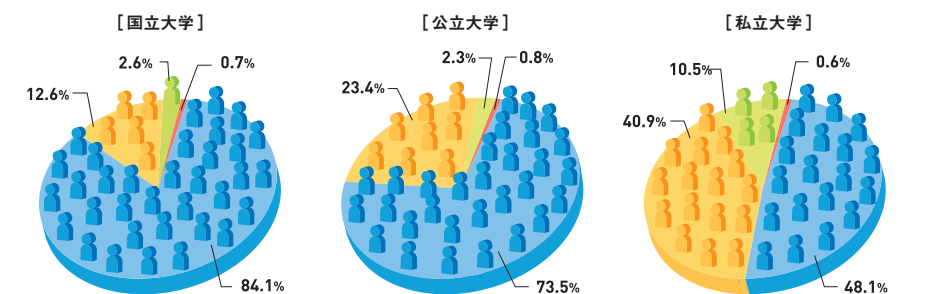


文部科学省「学校基本調査」 ※04年から「一時的な仕事に就いた者」を調査開始 ※「それ以外の者」には家事手伝い、海外進学、進路未定が含まれる

2010年3月の高校卒業生106万9129人。そのうち大学等に進学した者の割合は54.3%で、過去最高を更新した。また、このところ減少していた専門学校進学率は、増加に転じて15.9%。就職率15.8%を上回った。厳しい雇用環境により、就職から進学に切り替える生徒が少なくなかったという。

AO・推薦入試での入学者が増加。私立大では約半数

【大学入試方法別の入学者の割合】



文部科学省「平成22年度国公立大学入学学生選抜実施状況」より集計 ※「その他」は専門学校・総合学科卒業生入試、社会人入試、帰国子女・中国引揚者等子女入試など

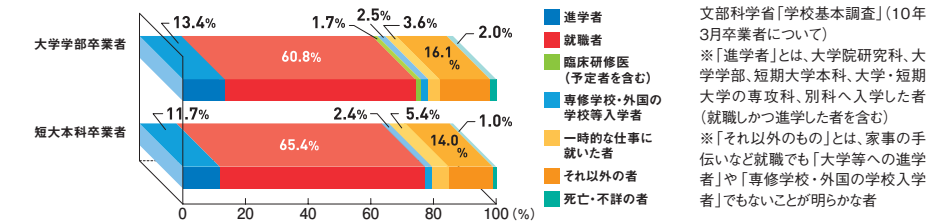
国立大学入学者の約8割は一般入試による入学者だが、私立大学は推薦入試とアドミッション・オフィス(AO)入試が約半数を占める。急速に拡大したAO入試は、面接や小論文等により意欲や適性を測るものが多いが、なかにはセンター試験を課す者もある。早い時期に志望校の入試内容を調べて対策をとりたい。

DATA 02

大学・短大の入口～出口の状況は?

就職者、大卒は6割、短大卒は6.5割

【大学・短大卒業後の進路状況】



10年3月の大学卒業生のうち就職した者の割合は60.8%で、前年の68.3%より低下。背景に厳しい就職事情がうかがえる。一方で、大学院等への進学者、専修学校等への入学者は増えて計15%を超える。また、短大卒の就職率は65.4%で、大卒と同様の傾向が見られる。

文部科学省「学校基本調査」(10年3月卒業生について) ※「進学者」とは、大学院研究科、大学学部、短期大学本科、大学・短期大学の専攻科、別科へ入学した者(就職かつ進学した者を含む) ※「それ以外の者」とは、家事の手伝いなど就職でも「大学等への進学者」や「専修学校・外国の学校入学者」でないことが明らか

DATA 05

進学費用はどれくらいかかる?

専門分野により学納金に約100万円の差

【専門学校の初年度納付金】

学科区分	入学金	授業料	実習費	設備費	その他	合計
情報処理	19.2	58.9	17.7	28.1	1.6	125.6
看護	14.0	50.4	6.5	6.4	3.1	80.3
臨床検査、診療放射線、臨床工学	14.0	81.4	29.1	13.7	0.3	138.6
理学療法、作業療法	42.1	91.4	17.6	22.3	1.9	175.4
栄養、調理	18.3	59.5	28.6	19.3	7.1	132.8
製菓	24.3	57.8	45.6	23.3	9.4	160.5
美容、美容	12.0	51.0	20.0	20.7	20.1	123.9
保育、教育	19.1	58.2	7.2	16.7	5.5	106.6
介護福祉	13.3	62.9	10.1	13.0	3.1	102.3
簿記・ビジネス・IT	14.2	66.0	4.8	17.3	2.1	104.3
旅行・ホテル・観光	14.5	80.8	9.2	20.4	0.3	125.1
服飾・家政	17.8	55.9	3.4	13.8	4.5	95.3
語学	12.4	86.1	1.4	12.2	1.4	113.4
美術、デザイン、写真	17.5	77.3	9.9	17.7	6.1	128.4
動物	19.3	52.8	20.8	23.8	10.3	127.0

専門学校の初年度納付金は、学科系統によって平均100万円程度から200万円近くまで幅がある。授業内容や必要の実習・設備が、学科によって異なることが影響している。また、同じ学科系統でも学校による違いが大きいため、志望校について個別に調べて確認したい。

東京都専修学校各種学校協会「平成22年度 学生・生徒納付金調査結果」専門課程(専門学校)平均(昼間部)より抜粋 ※各科目ごとの平均値を集計しているため、横の合計は一致しない。千円未満を四捨五入

学費以外にも年間数十～百数十万円必要

【大学生の年間生活費】

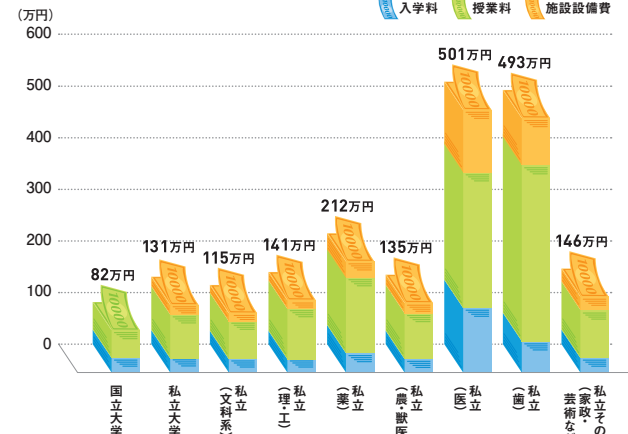
区分	自宅		下宿・アパート・その他	
	国立	私立	国立	私立
収入				
家庭から	719,000	1,293,800	1,333,000	1,976,400
奨学金	205,100	304,400	334,600	403,500
アルバイトほか	381,700	478,500	329,900	378,800
合計	1,305,800	2,076,700	1,997,500	2,758,700
支出				
授業料など学費	558,900	1,190,000	562,700	1,279,200
課外活動費	35,200	37,000	45,200	42,700
通学費	94,700	110,600	20,500	29,700
学費計	688,800	1,337,600	628,400	1,351,600
食費	107,700	102,200	283,300	263,300
住居・光熱費	-	-	495,400	466,000
その他日常費	259,900	289,100	309,100	302,400
生活費計	367,600	391,300	1,087,800	1,031,700
合計	1,056,400	1,728,900	1,716,200	2,383,300

日本学生支援機構「平成20年度学生生活調査」(大学・昼間部)より算出

学費のほか食費や住居費等も含めた大学生の年間生活費(支出)は、「下宿・アパート等の私立大学生」が最も高額で約238万円。これは平均値なので、学部や住む地域によってもっとかかる場合もある。また、収入の多くは家庭から得ているが、奨学金やアルバイトでまかなう割合も小さくない。

これだけ違う。国立vs私立、文系vs理系

【大学の初年度納付金】



文部科学省「私立大学等の平成21年度入学者に係る学生納付金等調査結果」(昼間部) ※国立大学は標準額

入学した年に大学に納める平均的な金額は、国立で82万円、私立で131万円だ。学部学科系統別に見ると、文系より理系系のほうが施設や実習等に費用がかかるため高額となる傾向がある。このほか、入学までには受験料や受験のための交通・宿泊費、場合によっては併願校への納入金など必要だ。